



コモングラウンド委員会 デジタルツイン研究WG

デジタルツインの現在地 展示会出展でシーズとニーズのギャップを考える

私たちコモングラウンド委員会 デジタルツイン研究WGは、これまでのシーズベースの取り組みに加え、社会実装を意識したニーズベースの活動にも力を入れています。その一環として利用者の生の声を直接伺うため、8月18、19日に東京ビッグサイトで開催された「第1回 製造イノベーションDXPO東京'26【夏】」において、DIT様の展示ブースをお借りし、展示を行いました。

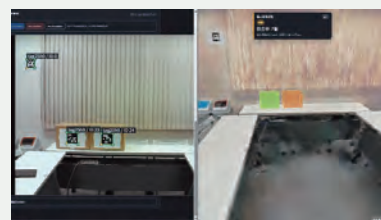
展示では、バーチャル空間上に再現したJASA会議室に対し、フィジカル空間に配置した箱をシステムで認識し、リアルタイムにバーチャル空間へ反映する仕組みを紹介しました。また、会議室のバーチャル空間は、「3D Gaussian Splating」という技術を活用し、360°カメラ映像から3D空間を再現しました。

シーズとしての価値

この技術の特徴は、低コストかつ短期間で空間をデジタル化できる点にあります。会議室程度の空間であれば、カメラを持って歩くだけでデータ収集が完了し、その日のうちに3D空間を生成できます。技術者の立場からは、この手軽さは大きな価値です。

ニーズまでの距離

しかし展示会で来場者と対話する中で、利用者が価値を感じる対象は私たち技術者の視点とは大きく異なることを実感しました。来場者の関



▲左のフィジカル空間に設置した箱が、右のバーチャル空間に反映されるツインの状態を展示した。

心は「3D空間を短時間で構築できること」ではなく、「棚卸作業の効率化」や「遠隔からの現場確認」といった業務課題の解決に向けられていました。利用者にとって重要なのは技術そのものではなく、結果として得られる効果です。この認識の違いこそが、技術の社会実装を難しくする要因の一つだと感じました。

今回の展示を通じて、技術シーズを磨くだけでなく、それを利用者の価値へ翻訳する重要性を改めて認識しました。多様な企業が集まるJASAだからこそ、シーズとニーズを結び付け、社会実装へつなげる役割を果たせると考えています。

九州支部

九州地域における半導体産業の現状と将来像を解説する講演会を開催

九州支部は8月26日に、パナソニックでチップマウンターの開発に従事されていた牧野豊氏をお招きし、「九州地域半導体産業の動向とサプライチェーン概要」と題したセミナーを開催しました。講演会場に16人、オンラインで4人のJASA会員の方にお集まり頂きました。牧野氏は、九州および北海道における半導体産業の発展に大きく貢献された豊富な実績をお持ちです。現在は西日本シティ銀行 法人ソリューション部 半導体チーム アドバイザーを務められるほか、ラピダス社の北海道進出支援にも携わっておられます。今回の講演も豊富な経験に裏付けられた内容で充実したものになりました。

講演は、九州地域における半導体産業の現状と将来像を、技術・市場・サプライチェーンの多角的な視点から網羅的に理解できる内容で、非常に有意義でした。まず、世界・日本の半導体産業の歴史的変遷と今後の成長予測から説き起こされ、その中で九州の戦略的位置づけが明快に示されました。特に、近年のAI需要拡大やデータセンター増設に伴うプロセス革新が、九州の強みである製造装置・材料分野のサプライチェーンにど

のような新展開をもたらすかについての解説は極めて示唆に富むものでした。

さらに、ハードウェア面にとどまらず「組込みソフトウェア」領域における新たなビジネスチャンスへの言及もあり、地域産業が取り組むべき次の一手と広がりを実感しました。半導体再興に沸く九州ですが、本講演を通じて単なる工場誘致の域を超えた、高度な技術革新とエコシステム構築の重要性を再認識しました。

聴講された皆様も、自社の事業展開や技術開発の方向性を検討するうえで、大いに活用したい価値ある知見を得ることができたのでは、と感じております。

セミナー終了後には、博多駅周辺の居酒屋にて懇親会を開催いたしました。講師の牧野氏をはじめ、セミナーに参加された皆様全員にご出席いただき、活発な意見交換や会社・職種を超えた交流が行われ、大変盛況のうちに終了いたしました。



▲牧野豊氏

中部支部

人事制度情報交換会 開催

中部支部では、9月11日に人事制度情報交換会及び懇親会を実施しました。中部支部の会員企業の人事担当者を中心に8社14名が集まり、人事制度、とりわけ賃金制度と評価制度のあり方について、企業が自社に合った仕組みを検討するための情報交換を実施しました。

情報交換会では、「正解を持ち帰る」のではなく、「自社制度を見直すための問いを持ち帰る」ことを目的に掲げ、そのうえで、人事制度見直しの背景として、人材確保競争の激化、賃上げ対応、社員の納得感向上、人件費の持続的なコントロールといった経営課題について話しました。

また、賃金体系を「何に対して賃金を支払うか」という観点から整理し、年齢・勤続給、能力給、役割給、職務給、成果給の5つの考え方を紹介して、それぞれに安定性や人材育成効果、役割責任との連動性、市場との整合性、業績反映のしやすさ、年功化、評価の難しさ、短期志向といった特徴を踏まえて、各社の制度について議論しました。

さらに、評価制度は経営方針と報酬をつなぐ「翻訳装置」で

あり、期待役割、目標、評価基準、処遇の関係を明確にしなければ社員の納得感は得られないと紹介し、基本給、手当、賞与、報奨金、自社株譲渡等それぞれの役割を整理し、それぞれの企業でどのような目的で支払い、どういった効果が現れるかを話し合いました。

最後に、社員の定着についても各社の現状と対策を話し合いました。業種や規模を超えて人事という同じ課題について様々な角度からの意見・情報交換が活発に行われ、時間内では議論し尽すことはできませんでした。

その後、場所を懇親会に移し、さらに活発な意見交換を実施し、大変盛況な会となり、参加者の皆様の満足度が高いイベントとなりました。



▲情報交換会の様子

北海道支部

生成AI時代の組み込み業界と人的資本経営をテーマに講演会

北海道支部は「交流セミナー2026」を開催しましたのでご報告します。

開催日時：2026年9月2日(水) 15:00～18:00 (交流会 18:00～)

開催会場：TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通

第1部：フィジカルAI・AI駆動型開発は人月ビジネスを終わらせるか ソフトウェア駆動型社会への変革と日本の競争戦略～組み込みソフトウェア業界の提言 2026～

当協会の山田敏行専務理事が強調したのは、生成AIの登場によってソフトウェア開発の前提が変わり、「人がコードを書く価値」や人月モデルが大きく揺らいでいる点です。AI駆動開発により少人数でも大きな成果が出せるため、SIerが従来の人月

モデルに固執すれば淘汰されるという見通しには、強い危機感を抱き、課題等について理解を深める機会になりました。

第2部：エンゲージメントを最強の財務指標にする「ヒト輝かせ資本経営」

田辺孝由樹氏(株式会社イレブン・ラボラトリー代表取締役社長)の講演は、「エンゲージメントこそ最強の財務指標である」を軸に、人的資本経営の重要性を説く内容でした。松下幸之助氏の「物を作る前に人を作る」を起点に、リーダーの信念が組織成果を左右すると語られました。欧州の大規模開発プロジェクト崩壊を立て直した経験から、技術やプロセス以上にES(従業員満足度)とエンゲージメントが危機を越える原動力になる、と述べられた点が印象的でした。

セミナーの参加者は全部で112名。来賓5名、講師2名、講演・運営6名、来訪者99名のご出席を頂き盛況なセミナーとなりました。皆様にお礼を申し上げます。

またセミナー終了後に同じ会場で交流会を開きました。



▲山田敏行専務理事の講演



▲田辺孝由樹氏の講演



近畿支部

「お月見会」報告 他支部からも参加し盛況

近畿支部では、9月16日(水)の支部会議に合わせ、「お月見会」を京都・先斗町の「いづもや」にて開催いたしました。近畿会員の皆様とのさらなる交流を目的として企画した本会には、近畿支部の皆様はもちろんのこと、今回は他支部からもお越しいただき、総勢48名もの方々にご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。

会場となった「いづもや」は、鴨川沿いに佇む風情ある名店です。当初は鴨川のせせらぎと涼やかな夜風を感じられる川床での開催を予定しておりましたが、当日はあいにくの雨模様と

なったため、急遽室内での開催へと変更いたしました。それでも、お部屋の大きなガラス窓からはゆったりと流れる鴨川の景色を眺めることができ、先斗町ならではの落ち着いた和の空間の中、天候を吹き飛ばすような、近畿支部らしい明るくアットホームで賑やかな時間が流れました。

お食事には、名物のうなぎをはじめ、旬の食材をふんだんに取り入れた京料理の数々が振る舞われました。美味しいお料理とお酒を味わいながら、各テーブルで自然と会話が弾み、会場のあちこちで笑顔が溢れる和気あいあいとした雰囲気にか

関東支部

関東支部例会開催報告

8月27日(木)に開催された関東支部例会についてご報告いたします。

今回の関東支部例会では、セミナーおよび懇親会が開催されました。今回は多くの方にご参加いただき、セミナー、懇親会ともに大変盛況となりました。

関東支部セミナー

関東支部セミナーは、関東支部長の挨拶から始まり、講演1、講演2、新入会員企業6社の紹介という流れで進行されました。以下、それぞれの概要をご紹介します。

関東支部長の挨拶

支部長からは、晩夏の猛暑にも関わらず40名超の会員企業の皆様に集まって頂いたことへの感謝の言葉のあと、ちょうど話題となっていた中国にて開催された第2回世界ヒューマノイドロボット競技大会に関する話がありました。

講演1「ブロックチェーン技術の基礎とモビリティへの応用」

講師:SBIホールディングス株式会社

執行役員 ブロックチェーン推進室長 藤本 守 氏

藤本氏より、「ブロックチェーン技術の基礎とモビリティへの応用」をテーマに、ブロックチェーンが生まれた背景や技術の特徴・課題、MOBI(Mobility Open Blockchain Initiative)の取り組みについてご講演いただきました。

今回の講演を通じて、ブロックチェーンは暗号資産だけに使われるものではなく、データの信頼性を担保し、企業間で安全に情報を共有するための技術として活用できることを学びました。特に、自動車業界では多くの企業やサービスが関わるため、改ざんされにくいデータを共有できるブロックチェーンとの親和性が高いと感じました。MOBIでは、車両1台ごとにIDを持たせるVIDや、EVバッテリーの製造・使用履歴を管理するバッテリーパスポートなどの取り組みが進められており、中古車の履歴やバッテリー状態など、車両に関する情報の信頼性向上に



▲挨拶するエステベス支部長



▲藤本氏の講演の様子



▲國井理事の講演の様子

まれていました。

また、他支部からのご参加があったことで、普段の関西の枠にとどまらない支部を超えた繋がりを作ることができたことも、今回のお月見会ならではの魅力となりました。

あいにくの天候による会場変更はあったものの、美味しいお食事や皆様の笑顔、そして賑やかな笑い声に恵まれ、時間が経つのを忘れるほどの盛り上がりを見せました。会員同士の親睦をさらに深める、大変楽しく充実したひとときとなりました。

ご多忙の中ご参加いただきました皆様、ならびに他支部よりお越しいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



つながることが分かりました。

これまでブロックチェーンには暗号資産のイメージを強く持っていましたが、モビリティをはじめ、企業や業界を越えて信頼できるデータを共有する仕組みとして幅広い可能性を持つ技術であることが印象に残りました。

講演2「クロスミドルの経過報告」

講師：国井 雄介 理事

国井理事より、「クロスミドルの経過報告」と題し、これまでの活動内容や活動を通じた成果、今後の展望についてご講演いただきました。クロスミドルは、30～40代のミドル世代が企業の枠を越えて交流し、業界の未来を考え、実際の行動につなげていく活動であることを学びました。特に印象に残ったのは、単なる「人材育成の場」ではなく、「成長のための気づきを与え続け、参加者同士で共に成長する場」を目指している点です。

これまでの活動では、経営や営業などをテーマに、講義だけでなく参加者同士でディスカッションを行い、得られた学びを実際の行動につなげています。また、利害関係のない同世代だからこそ本音で意見交換ができることも、企業横断型の活動ならではの価値だと感じました。

クロスミドルは、参加者本人の成長だけでなく、企業にとっては次世代リーダーの成長、業界にとっては競争力の強化につながるなど、「本人・企業・業界」の三方に価値を生み出す活動であることが印象に残りました。

新入会員企業紹介

新入会員企業として、Apal Tech Japan株式会社、シマフジ



▲屋形船での懇親会の様子

電機株式会社、株式会社シームレステクノロジー、TIS長野株式会社、株式会社オレンジアーク、ミラクシア エッジテクノロジー株式会社の6社よりご紹介いただきました。

懇親会（屋形船）

講演終了後は場所を屋形船に移し、40名を超える参加者による懇親会が開催されました。

お台場やスカイツリーの夜景を眺めながら、名刺交換や意見交換はもちろん、参加者同士で写真を撮るなど、終始和やかで活気のある交流の場となりました。特に印象的だったのは、屋形船という非日常的な空間だからこそ、会社や役職の垣根を越えて自然と会話が生まれていたことです。普段の会議室や飲食店とは異なる開放的な雰囲気の中で、より一歩踏み込んだ交流が生まれ、会員企業同士のつながりを深める貴重な機会となりました。

今回生まれたつながりをその場限りにせず、今後の情報交換や新たな連携へとつなげていきたいと思います。